



TITLE:

あとがき

AUTHOR(S):

CITATION:

あとがき. 静脩 1968, 5(1): 6-6

ISSUE DATE:

1968-05

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/36458>

RIGHT:



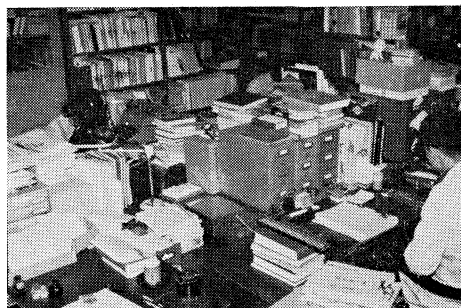
人文科学研究所図書室

昭和14年、大学構内の一隅に設置されたこの研究所の図書室は、国家に必要な、東亜問題に関する人文科学分野の図書を収集してきたが、昭和24年、東方文化研究所と、西洋文化研究所を合併し、これ等の蔵書を加え、世界文化に関する人文科学分野の図書を収集し、その蔵書数は、現在25万冊を越えている。この蔵書の中には、村本文庫をはじめ、中江丑吉氏旧蔵の中江文庫、松本文庫、内藤湖南博士旧蔵の蒙古学関係書、矢野文庫等が含まれている。図書室は本館と、分館に分かれ、前者には、東洋関係の図書を保管し、後者には、日本、西洋関係の図書を保管しているが、これ等の図書の受入、整理業務は一括して分館図書室で行なっている。本館図書室では、本館図書の貸付、閲覧業務を行なっているが、昭和40年、東洋学文献センターが設置され、センターとの業務分掌の点で、現在幾つかの問題を背負っている。

図書職員は、両方合せて、わずか8名に過ぎない。少い人員の上に、本館の書庫も往年の整備された姿も、今はもはやすし詰め状態となり、一方分館は、設立当初から書庫がなく、ホールの一部を書架とベニヤ板で区切って代用してきたが、直ぐに狭あいとなり、ついに現在では、個室や物置にまで進出し、合併以前のものは、附属図書館の旧書庫に別置し、その他のものも6カ

所に分散している。このため出納業務は手間どり、その上照明も悪く、係員は、カンテラ、電池等を使用して、その業務に当たっている。なおこうした悪条件の中で、未登録であった旧東方文化研究所蔵の図書およそ8万3千冊の受入を42年度に行なったため、分類替え、カードの整理に、日常業務をかかえた上に行なうことは、至難の業といえよう。が、一方東洋学文献センターと、図書を共用しているので、一日も速く、整理が望まれている現在、図書室とセンターとの仕事の調整等も望まれ、如何にして運営をスムーズに行なうか、今後の大きな課題になっている。

現在、私達が第一に希望するのは、本館と分館の建物の統合である。統合が実現されれば、分かれているための仕事のむだをなくし、図書業務を合理的に行なうことにより、現在のマヒ状態から一刻も速く脱出することである。以上のような悪条件の中で、ただ一つ職場のふんい気は明朗で、建設的な意欲を失うまいと、皆で努力し、如何にして一日も速く、図書室の運営を近代化した軌道にのせるか、ということを経験あるごとに話しあい、物理的な悪条件を克服すべく、努力していることである。



あとがき 情報の洪水といわれる現代にあって、迅速な整理、検索のしくみを図書館においても考えねばならないおり、巻頭言に坂井先生の文章を掲載できましたことはうれしく、厚くお礼申し上げます。

本号よりつぎの者が編集を担当することになりました。皆様がたとの Communication をよくし図書館を大いに利用していただくため、利用者の声を誌上に反映させたいと思いますのでご意見をお寄せ下さい。

須原 英夫 (本館)	小国 健一 (本館)	吉井 良之 (本館)	笹本 光代 (本館)
尾崎富美枝 (本館)	青木 正夫 (本館)	篠原 俊夫 (本館)	田中 穰二 (法)
音瀬美年子 (文)	島田 広二 (農)	金井 孝 (薬)	奥 典子 (教養)
秦 昭子 (人文)	作美美代子 (工)	西野 久之 (理)	

京都大学附属図書館報「静脩」Vol. 5, No. 1 (通巻22号) 1968年5月15日発行・編集発行人：
岩瀬敏生 発行所：京都大学附属図書館・京都市左京区吉田本町・電代表771-8111 (内線) 2220~2238